

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12460

研究課題名(和文) 要介護高齢者と家族が在宅介護を選択した時にもたらされる潜在的経済価値

研究課題名(英文) Predictive factors of negative spillover from caregiving to employment among Japanese family caregivers with older relatives

研究代表者

本田 歩美 (HONDA, Ayumi)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・客員研究員

研究者番号：30732341

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、仕事をしながら高齢者を介護している家族を対象に、介護保険サービスを活用することによって家族介護者の介護負担はどのくらい軽減するのか、介護が家族介護者の仕事や生活に与える影響を明らかにすることを目的に実施した。その結果、介護形態の選択には家庭の経済的状況が大きく関係しており、要介護高齢者自身の経済力によっても介護が介護者の仕事や生活に与える影響が異なることが明らかになった。また、在宅で高齢者を介護している家族は、施設に入所している高齢者をもつ家族よりも経済的に困窮している世帯が多く、介護に伴う生活時間の拘束や身体的な負担が大きいことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究から得られた成果は、高齢者とその家族の介護ニーズとライフスタイルの狭間にある経済資源と介護負担との関係を明らかにし、今日の社会保障制度ではカバーできない介護問題を抱える高齢者とその家族の経済的課題を克服する大きなヒントとなると考えられる。働きながら高齢者を介護する家族の仕事・生活・介護の相互影響に着目し、仕事と介護の両立に伴うストレスと介護資源について検討した本研究は、家族介護におけるヘルスマネジメントの一端を担うものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The present study aimed to identify the predictive factors for negative spillover from caregiving to the employment role among Japanese family caregivers with older relatives. We collected 568 family caregivers with older relatives who lived in their home. This study found that working family caregivers who bore the care cost for the older relatives had more burden than those who did not bear care cost. Moreover, the family caregivers with older relatives who lived in their home had more economic and physical burdens, and disturbed balance between work and family life compared to those with older relatives who lived in care facility.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：介護形態 家族介護負担 要介護高齢者 仕事と介護のspillover

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

介護が介護者の生活と仕事に与える影響は大きく、介護により離職した者は平成 19 年から 24 年までの 5 年間で 48 万 7000 人に上った。勤務時間の調整や職場での配置転換、上司・同僚からの理解を得て、仕事と介護の両立を図っている家族介護者がいる一方、勤務時間の短縮や職場での配置転換等の就労調整を行った結果、正規雇用から非正規雇用への転身、収入の減少により経済的に困窮している介護者も増加している。日本では働く世代に焦点を当てた介護研究は欧米と比べて少なく、高齢者を介護する就労者に対する体系的な支援体制は未だ不十分である。仕事と介護の両立にむけた支援や取り組みには、勤務時間の短縮や職場での配置転換等の就労調整のみならず、介護者が抱える経済的課題および社会文化的背景を考慮した施策立案は喫緊の課題となっている。研究代表者らは、その基盤構築として、平成 27 年度より「高齢者を介護している就労者が介護形態を選択する時にもたらされる潜在的経済価値」というテーマで研究を開始した。介護形態は、介護状況や家族の特性に応じて多岐にわたる。仕事と介護の両立には、介護者が抱える経済的課題および社会文化的背景を考慮した支援や取り組みが大変重要であると考え、本研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究は、仕事をしながら高齢者を介護している家族を対象に、介護保険サービスを活用することによって家族介護者の介護負担はどのくらい軽減するのか、家族介護者にどのような利益（就労継続、精神的・身体的健康状態の改善）がもたらされるのか、介護が家族介護者の仕事や生活に与える影響を明らかにすることを目的に実施した。

3. 研究の方法

平成 29 年度および平成 30 年度は居宅介護サービスを利用している高齢者をもつ家族介護者を対象に、質問紙調査を実施した（質問紙を 1473 部配布し、884 部を回収した）。調査への拒否および無回答を除く 568 人から回答を得た。得られたデータは、平成 27 年度および 28 年度に実施した施設介護調査（施設入所している高齢者をもつ家族介護者への調査）で得られたデータ（494 人）と比較分析を行い、介護が家族介護者の仕事や生活に与える影響、家族介護者の利益と介護負担との関連、家族介護者の精神的健康状態について調べた。

高齢者を介護している家族介護者を対象に行った調査内容は、以下のとおりである。

- (1)属性：性別、年齢、婚姻状況、家族構成、職業
 - (2)身体的健康状態：主観的健康状態、睡眠状態、慢性疾患および服薬の有無
 - (3)精神的健康状態：K10
 - (4)就労状況：就労の有無、雇用形態、1 日あたりの勤務時間、職場でのサポート、就労意欲
 - (5)経済状況：世帯収入、主観的経済状況、介護費用の経済的負担
 - (6)介護が仕事に与える影響：勤務時間および勤務日数の短縮、転勤/転職の有無、収入の増減
 - (7)要介護高齢者の属性：性別、年齢、介護者との続柄、要介護度、周辺症状（認知機能レベル）
 - (8)要介護高齢者の経済状況：公的年金・恩給の有無、仕送りの有無、財産所得の有無
 - (9)介護保険サービスの利用の有無と程度
 - (10)介護状況：介護者が実際に行っている介護、介護負担、介護に対するサポートの有無
 - (11)(要介護高齢者以外の)家族の健康状態：障害や病気による介護の有無、社会的活動の有無
 - (12)仕事と介護の相互影響：the direction of spillover and caregiver's psychological well-being 項目
- *仕事と介護の相互影響は、Stephens ら(1997)によって開発された the direction of spillover and caregiver's psychological well-being 尺度を用いて、仕事と介護者役割間のネガティブな影響とポジティブな影響について評価した。

本研究は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の倫理委員会において承認されており（NO.15082038）調査の実施に際しては、調査の趣旨を理解し、同意の得られた家族介護者のみを対象とした。

4. 研究成果

介護形態の選択には家庭の経済的状況が大きく関係しており、要介護高齢者自身の経済力によっても介護が介護者の仕事や生活に与える影響が異なることが明らかになった。また、在宅で高齢者を介護している家族は、施設に入所している高齢者をもつ家族よりも経済的に困窮している世帯が多く、介護にかかる費用は少ないものの、介護に伴う生活時間の拘束や身体的な負担が大きいことが明らかになった。

本研究の結果から、介護費用を負担している介護者では、家計からの介護費用の捻出は労働報酬と介護サービスの受給とを代替えにした介護になっている可能性が考えられた。介護に充てる経済的な余裕がない家庭では、高齢者とその家族の介護ニーズとライフスタイルに合った利用できる介護サービスの選択肢が限られる。そのため、介護をする家族は生活時間や就労時間が制限され、介護に伴う負担も大きくなるかもしれない。これまでの研究において、高齢者の介護購買力(介護費用を支払う経済力)が介護者の仕事と生活に与える影響は明らかになっていない。今後、少子高齢化および晩産化の影響により、高齢者の介護を担う働く世代がさらに増加することが予想されている。今、世界では、仕事をしながら高齢者を介護している家族のストレスと負担をいかに軽減し、介護者の生活と仕事の生産性を維持するか、介護者の生活と健康を取り巻くヘルスケアマネジメントに関する研究がすすめられている。本研究から得られた成果は、高齢者とその家族の介護ニーズとライフスタイルの狭間にある経済資源と介護負担との関係を明らかにし、今日の社会保障制度ではカバーできない介護問題を抱える高齢者とその家族の経済的課題を克服する大きなヒントとなると考えられる。働きながら高齢者を介護する家族の仕事・生活・介護の相互影響に着目し、仕事と介護の両立に伴うストレスと介護資源について検討した本研究は、家族介護におけるヘルスケアマネジメントの一端を担うものとする。

表 介護サービス利用に伴う費用負担からみた介護者の経済状況と介護負担、介護が仕事に与える影響

	施設介護サービス利用に伴う費用負担		居宅介護サービス利用に伴う費用負担	
	高齢者自身が 全額支払っている	介護者(家族)が 支払っている	高齢者自身が 全額支払っている	介護者(家族)が 支払っている
家族介護者	377人 (43.5%)	86人 (9.9%)	336人 (38.8%)	67人 (7.7%)
介護者の主観的経済状況 (N=852)				
大変苦しい/ やや苦しい	103 (27.3)	45 (52.3)	133 (39.6)	37 (55.2)
ふつう	227 (60.2)	34 (39.5)	177 (52.7)	26 (38.8)
大変ゆとりがある/ ややゆとりがある	41 (10.9)	7 (8.1)	20 (6.0)	2 (3.0)
介護者の世帯年収 (N=775)				
250万円未満	105 (27.9)	34 (39.5)	170 (50.6)	39 (58.2)
250万円以上400万円未満	112 (29.7)	26 (30.2)	68 (20.2)	20 (29.9)
400万円以上	122 (32.4)	22 (25.6)	54 (16.1)	3 (4.5)
就労の有無 (N=856)				
仕事をしている	206 (54.6)	50 (58.1)	143 (42.6)	31 (46.3)
仕事をしていない	167 (44.3)	36 (41.9)	187 (55.7)	36 (53.7)
介護が仕事に与えるネガティブな影響の大きさ				
平均 (範囲)	9.8 (7-25)	11 (7-24)	12 (7-25)	12.6 (7-19)
介護負担総数 (全8項目)				
平均 (範囲)	0.95 (0-7)	1.53 (0-6)	2.36 (0-8)	2.75 (0-8)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Honda Ayumi, Iwasaki Yoshie, Honda Sumihisa	4. 巻 29
2. 論文標題 The Mediating Role of Sleep Quality on Well-Being Among Japanese Working Family Caregivers	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Home Health Care Management & Practice	6. 最初と最後の頁 139 ~ 147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1084822317692320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Honda A, Iwasaki Y, Honda S
2. 発表標題 The mediating role of sleep quality on well-being of working family caregivers
3. 学会等名 The International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) 21st World Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本田歩美
2. 発表標題 施設入所高齢者をもつ家族介護者における介護が仕事に与える影響
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本田 純久 (HONDA Sumihisa) (90244053)	長崎大学・医歯薬学総合研究科（保健学科）・教授 (17301)	